

## オーラルヒストリーの利活用の課題 ～沖縄戦体験談の収集から利活用まで～

眞喜志 悦子 (岐阜女子大学)

沖縄戦の戦中戦後に小学生であった仲本實先生に、米軍の上陸前後から収容所までの戦争体験を子どもの視点でオーラルヒストリーとして聞き取りをして、デジタルアーカイブ化した。その中から教材として適する素材を抽出し、教材デジタル・アーカイブとしての構成方法について検討を行った。また、沖縄戦を深く知るための資料としての利活用についての課題を検討した。

### (1) 戦中・戦後の体験者 ～いかに話を残すか～

沖縄戦の戦中・戦後の体験は、同年代の子どもが大人の視点からの話が多く、当時の子どもがどのように受け止め、考えたかという話が教材として重要である。しかし、一般的に戦中・戦後の厳しい状況での体験が話される機会は少なく、また、当時の小学生だった人々は75歳以上になられている。現在、オーラルヒストリーのデジタルアーカイブとして構成できる時間的な余裕はない状況になってきている。そこで、長年にわたり親交のある仲本實先生に当時(戦中・戦後)の状況をオーラルヒストリーとして、お話をお願いできることになった(2011年)。このことは、仲本先生のご厚意と、教育者として当時の様子を現在の子どもに残すという思いで可能になったことを一同大変感謝し、また、大切にしたい。



資料を見せながらお話しされた

### (2) 仲本先生のオーラルヒストリーと教材化

2010年8月11日に仲本先生の第1回のオーラルヒストリーの収録を進めた。仲本實先生のオーラルヒストリーの構成は、右のようである。ここからさらに、教材として必要な課題(項目)を抽出し、その具体的な話をお願いし、小学生を対象とした教材を作成した。

#### オーラルヒストリーの構成

- 1) 昭和13～15年頃の生活
- 2) 戦争近づく
- 3) 最初の爆音
- 4) 再び山田国民学校へ
- 5) 10月10日の空襲
- 6) 昭和20年上陸戦争の前触れ
- 7) 4月1日米軍上陸
- 8) 家族は難民収容所へ
- 9) 山中での暮らし
- 10) 米軍の態度がだんだん険悪になってきた
- 11) 石川収容所と終戦
- 12) 宮森小学校時代
- 13) 浮浪者時代終わる

### (3) 著作権やプライバシー等の観点からの課題

教材とは別に、沖縄戦をより深く知るためのオーラルヒストリーとしての利活用の検討を行った。特に公開にあたっては、登場する人物のプライバシーが問題となる発言があり、公開できない情報が多数あった。こうした情報は外部に漏れないように慎重に管理する必要がある。今回の聞き取りに関わらず、一般的にオーラルヒストリーの収集の際には、こうした慎重な取り扱いになる情報の保管を嫌い、その収集自体を断念したり、逆に話者やその関係者等から聞き取りを断られることもある。しかし、収集されることのなかった資料の中には、当時の状況を伝えるためのものとして重要な資料が数多くあったに違いない。こうした課題を解決するための方策が必要だと感じた。そこで出てきたのが、岐阜女子大学の Item pool と Item Bank という考え方である。

#### ① Item pool

Item Pool は、いわばデータの一時保管をおこなうためのデータプールである。データを利用・公開する上で問題となる著作権やプライバシー等への考慮はいったんは無しにして、データを収集し、メタデータを付加した上で、データベース等に保管するためのものである。

#### ②短期・長期 Item Bank

Item Pool に一時保管したデータの中から選択し、適否を評価したものは、Item Bank に保管する。このとき、著作権・プライバシーの問題で現状では利用・公開できないデータについては、長期保管用として長期 Item Bank を構成し、その旨を記録する。そして、数十年、数百年先の利用・公開できる期日まで継続して保管を行う。そして、現状でも利用・公開可能な情報に関しては、短期 Item Bank を構成し、必要に応じて利用・公開を行う。この振り分けを行う基準として、「選定評価項目」を構成した。

#### <選定評価項目>

- ① 保管・流通利用目的
- ② 慣習・権利
  - a 利益・慣習
  - b 権利
  - c 利益
- ③ 社会的背景評価
- ④ 文化的内容の適否
- ⑤ 利用者の状況（教育的配慮も含む）
- ⑥ 利用環境（提示利用の状況）
- ⑦ 保管の安全上の課題（国内外の社会的背景・状況）

### (4) ガイドライン作成の必要性

今後の課題としては、長期 ItemBank に関して、データの物理的な保管方法やデータベース化する際のメタデータの検討があげられる。社会情勢に配慮しながら、選定評価項目そのものの再検討も行っていく必要もあるだろう。デジタルアーカイブ学会では、「肖像権処理ガイドライン」(案)の検討も始まっている。これにより、収集・作成したものの、公開まではされてこなかった資料が公開されるようになることを期待したい。それと同時に、公開に至るまでの道筋がより明確になったことで、これまでデジタルアーカイブされてこなかった資料の収集が進むことを切に望む。

	メタデータ項目	タブリン・コア
1	ID	(10) identifier
2	表題名	(1) title
3	資料名	(1) title
4	内容分類	(3) subject
5	索引語	(3) subject
6	説明	(4) description
7	形式	(9) format
8	氏名	(2) creator
9	時代・年	(7) date
10	地域・場所	(14) coverage
11	利用条件	(15) rights
12	関連資料 1	(13) relation
13	権利者	(6) contributor
14	協力者	(6) contributor

15	登録日
16	登録者
17	ファクトデータ
18	* 特色
19	* 活用支援
20	* 利用分野
21	* 改善結果
22	* 処理プロセス
23	* 関連資料 2

※項目 1 2 [関連資料 1] と項目 2 3 [関連資料 2] について、本用紙は記入用紙のため、メタデータ上は 1、2 は同一項目とする。

還元情報管理のためのメタデータ項目（岐阜女子大学）